

は し が き

大阪は、江戸時代には商都として、明治以降は日本有数の工業都市として栄え、その後も多様な産業が集積し、現在まで日本及び関西経済の中心都市として発展を遂げてきました。

しかしながら、近年は、東京への一極集中が進むとともに、大阪の強みの一つである卸売業や製造業において、流通形態の変革や生産拠点の移転等が進み、大阪はその全国シェアを低下させてきました。

また、大阪経済は、直近では緩やかな回復基調が持続していますが、急激な経営環境の変化、少子高齢化による国内市場の縮小、人手不足や原材料価格の高騰等の影響などにより、市内中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況となっています。

一方、このような厳しい経営環境下においても、高い技術力や独自の製品等を有し、高付加価値化により成長している企業も多く存在し、環境・エネルギー分野や健康・医療分野など、将来の成長が期待される分野の企業や研究機関が集積している点も大阪・関西の強みであります。

さらに、近年は来阪外国人旅行者が急増し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を中心としたゴールデン・スポーツイヤーを控えるなど、大阪では今後様々なビジネスチャンスの拡大が期待されます。

本冊子は、こうした大阪の産業経済の姿を、各種の統計資料等をもとに、グラフ等を交え平易に解説したものです。

第Ⅰ部では、大阪経済の現況について記載し、第Ⅱ部では、業種別産業動向についてグラフ化した統計数値を中心に記載しています。第Ⅲ部では、経済活動の現状を24区別、地域別に細分化して記載しています。なお、巻末には、データ集を掲載しております。

本冊子が、大阪経済の現状と課題を理解していただく一助となれば幸いに存じます。発刊にあたり、各種資料を快くご提供くださいました関係機関、ご多用の中ご協力を賜りました方々に対し、厚くお礼申しあげます。

平成30年2月